

サクシュ琴似川の再生について

札幌市では、現在、水と緑豊かな都市空間の形成を目指すため、豊平川などから導水することにより、水枯れ河川の清流復活を図る事業を進めておりますが、このたび、その一環として、平成13年度から北大との連携により進めてきたサクシュ琴似川の再生事業が完了いたしました。

サクシュ琴似川は、北大植物園付近にあったメム（湧泉）を水源とし、北流して偕楽園のメムと合流した後、北大キャンパス内を通り、琴似川に流れ込んでいた川で、かつてはサケも遡上していましたが、都市化の進展に伴う地下水位の低下などにより、戦後、これらの水源は枯渇し、河川の一部は埋められた状態にありました。

このような状況の中、北大では、創基125周年（平成13年）記念事業として、キャンパス内の埋められた河川を再生する「サクシュコトニ川再生事業」を実施し、また、本市においても、藻岩浄水場の浄水過程で発生する放流水を導水するための施設整備を行うとともに、下流部の準用河川区間において、環状通エルムトンネルの工事に併せて河川環境整備を行いました。

これらの事業の完成を記念し、5月中旬には通水式を行う予定となっております。

通水後は、北大関係者のみならず、市民や観光客の憩いの場として有効に利用されることが期待されます。

1 導水事業の概要

サクシュ琴似川への導水の水源は、札幌市水道局藻岩浄水場の浄水過程で発生する放流水を活用し、導水施設については、廃止した水道管の有効活用を図るとともに、新たに導水管を敷設しました。

- (1) 導水流量 $0.07 \text{ m}^3/\text{s}$ (約5,800 m^3 /日)
- (2) 導水管延長 約6.6 km (うち廃止水道管は約4.4km, 新設管は約2.2km)
- (3) 整備期間 平成13～15年度

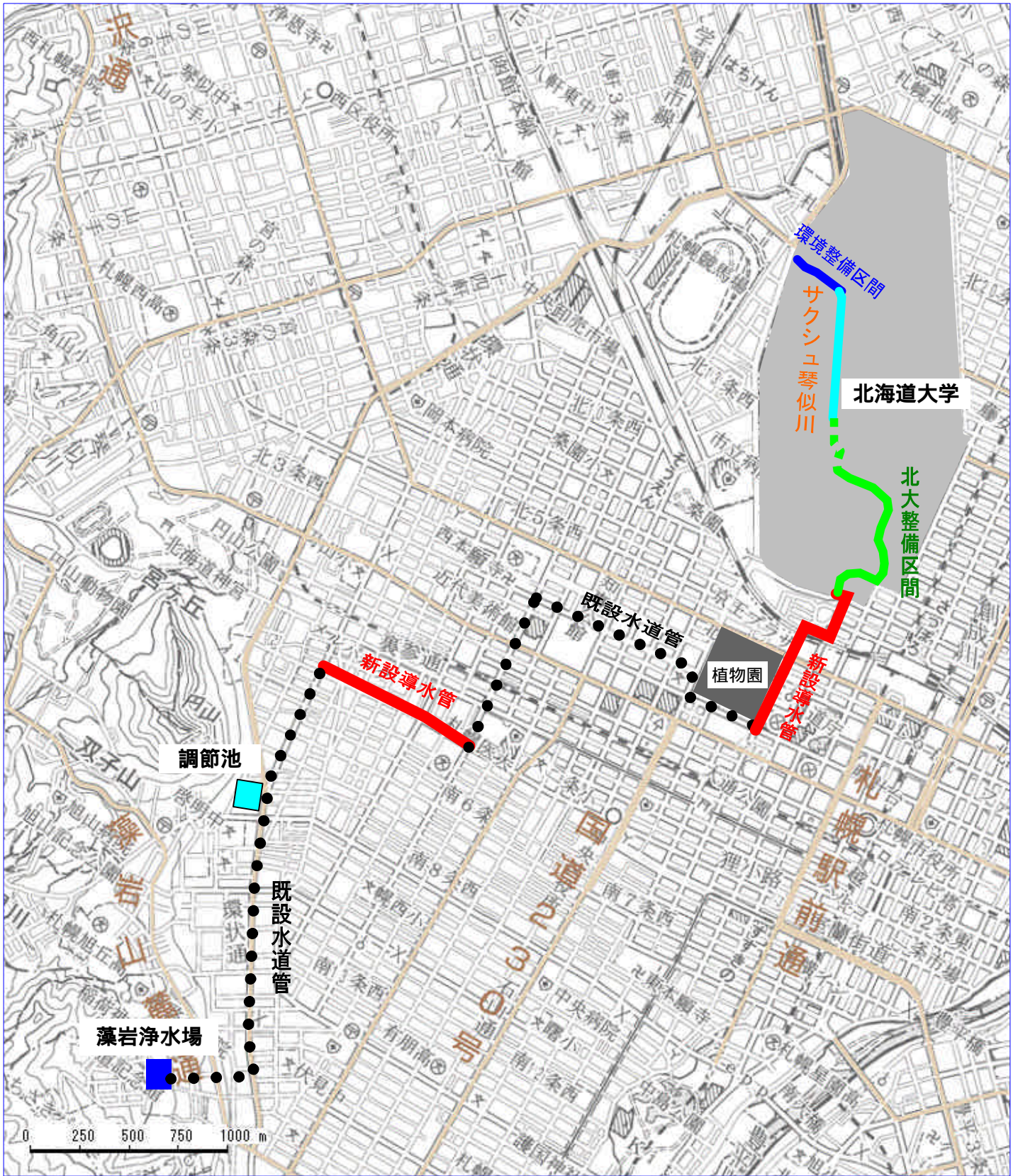
2 環境整備事業の概要

下流部の準用河川区間(約860m)のうちの一部区間については、環状通エルムトンネル工事に併せて、環状通地上部の遊歩道計画や北大キャンパスの自然環境との調和を図りながら、護岸や散策路、植栽などの環境整備を行いました。

- (1) 整備延長 約300m
- (2) 整備期間 平成13～14年度

問い合わせ先 建設局土木部河川課 電話 211-2627

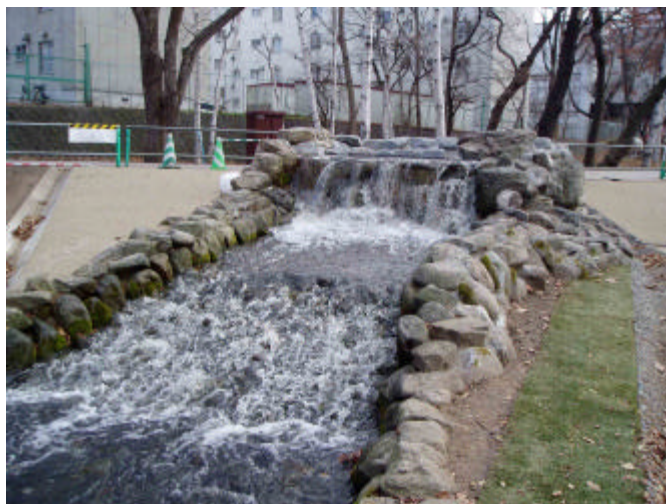
サクシュ琴似川再生事業位置図



サクシュ琴似川再生事業について

(印の写真は ,試験通水時 (H15.12.4)のもの)

<北大構内水路>



吐出口()



中央ローン()



弓道場付近

<環境整備区間 (エルムトンネル周辺)>



整備前



整備後